

広島県フロラ覚書 (9) ウドカズラおよびミツバコンロンソウ

世羅徹哉<sup>1)</sup>

**Memoranda for the Flora of Hiroshima Prefecture (9)**  
***Ampelopsis cantoniensis* var. *leeoides* and *Cardamine anemonoides***

Tetsuya Sera<sup>1)</sup>

**Summary**

*Ampelopsis cantoniensis* var. *leeoides* was rediscovered in Hiroshima Prefecture for the first time in 40 years and *Cardamine anemonoides* was newly recorded to be living in Hiroshima Prefecture.

**Keywords:** Hiroshima Prefecture, new record, *Ampelopsis cantoniensis* var. *leeoides*, *Cardamine anemonoides*

**ウドカズラ**

***Ampelopsis cantoniensis* var. *leeoides***

広島県植物誌によると、ウドカズラ (*Ampelopsis cantoniensis* (Hook. et Arn.) Planch. var. *leeoides* (Maxm.) F. Y. Lu が広島県に生育することは、大久保一治により 1975 年に初めて報告された。このときの証拠標本を広島県植物誌の執筆者らが調査している。しかし、その後自生が確認されなかったため、広島市の生物およびレッドデータブックひろしま 2008 では情報不足、レッドデータブックひろしま 2011 では要注意種にそれぞれ選定されている。

大久保氏が発見した渓谷は植物相の豊かな場所として知られ、多くの関係者が何度も訪れているにもかかわらず発見されないで、すでに絶滅したのではないかと危惧されていた。そのため広島県内の植物関係者にとって本種の生育確認は永年の関心事であり、著者も渓谷を訪れるたびに双眼鏡を使って本種を探したが発見できなかった。そのような状況の中、「大久保氏は車道を歩きながら観察されたはず

なので、ウドカズラも恐らく車道に面した場所にあるだろう」という吉野由紀夫氏のアドバイスに従って渓谷内を調査したところ、本種を発見することができた。

著者は以前、山口県の吉岡龍太郎氏らの案内で萩市長門峡に自生するウドカズラを観察したことがあった。自生地は海拔高度約 120m。深い峡谷内で東向きの急斜面下部だが、広い河川に面して日当たりがよい場所だった。アラカシなどの常緑広葉樹の樹冠を覆うように繁茂した本種の葉の光沢が、陽光に当たって眩しいほどだったことを記憶している。そこで 2015 年 6 月 27 日、同様に光沢の強い葉を目視で探し、その葉を双眼鏡で確認するという手順で観察を行っていたところ、高さ約 15 メートルまで巻き上がった本種を発見した。この時は花がなかったため 8 月 1 日に再度訪れ、花を確認した。

今回確認した自生地は、大久保氏の報告と同じ渓谷内の海拔高度 180m、東向きの日当たりの良い場所で、車道沿いの空き地に面した幅、高さともに約 15m の岩場だった。植林に適さない場所だったた

\* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.108

1) 広島市植物公園

Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden No.34:37-39, 2019.



ウドカズラの生育状況



花時のウドカズラ

めに伐採されなかったと思われるアラカシ、ホソバタブ、クリ、ケヤキなどの高木をマタタビ、ヤマフジ、アオツツラフジなどのつる性植物とともに覆っていた。蔓をたどると、少なくとも3個体が斜面途中の岩棚に生えていた。それらの蔓は、地面から約1mの最大直径が8~10cmであった。その他にヤブツバキ、ミツデカエデ、ヤマグワ、シキミ、アブラチャン、ビロードイチゴ、サルトリイバラ、ウツギなどの低木や灌木類が見られた。

2017年には、松井健一氏が同じ溪谷の約400m上流で別の生育個体を発見している。著者は2018年10月にこの生育地を観察し、同じように日当たりの良い岩場で、直径約5cmの蔓を伸ばした3個体を確認した。溪谷内には同じような環境が多数あるのでさらに新たな生育個体が発見される可能性がある。

ウドカズラは、ブドウ科ノブドウ属のつる性落葉木本で、本州（紀伊半島、山口県）、四国、九州と台湾北部に分布する（米倉2016）。中国地方では鳥取県を除いて自生の記録があるが、岡山県では1913年以降確実な採集例がないため絶滅したとさ

れている（狩山2010）。

一方本種は、生育地や生育個体が少ない、また生育環境がかく乱されやすいなどの理由で絶滅危惧種に選定されている場合が多い（京都府、兵庫県、島根県、山口県、福岡県など）。広島県では1975年以降未確認だったために要注意種（環境省ランクでは情報不足）に選定されている（レッドデータブックひろしま2011）。今回再発見されたことでカテゴリーを見直す必要があると思われるが、愛媛県レッドデータブックで指摘されているように、広島県内においても詳細な生育状況が解明されているとはいえないので、今後も調査を継続する必要がある。

なお、証拠標本は広島市植物公園に保管してある（tsr-150687, tsr-150803）。

### ミツバコンロンソウ *Cardamine anemonoides*

ミツバコンロンソウ (*Cardamine anemonoides* O.E.Schulz) は、アブラナ科タネツケバナ属の小型の多年草で、関東以西の本州、四国、九州に分布する日本の固有種である（加藤・海老原2011、門田・



ミツバコンロンソウの自生地



広島県のミツバコンロンソウ

米倉 2016). 加藤・海老原 (2011) の分布図によると, 本州の生育記録は関東から紀伊半島までで, 京都, 大阪以西の記録はない. 著者は, 2015 年 4 月 29 日に広島県内で初めて本種の生育を確認したので記録する.

自生地は, 広島市北西部, 海拔高度 900m の北西向き斜面上部の樹林下. 土壌の表層は, 腐植土がわずかな礫状で崩れやすい急斜面だったが, 水分条件は適湿と思われた. 樹林は, 植林されたと思われるスギとカエデ類, クマノミズキ, トチノキなどの落葉広葉樹からなり, 本種は約 10m 四方の範囲に約 20 個体が点在していた. 随伴種としては低木層にアブラチャン, サンショウ, 草本層にはヤマアイ, ラショウモンカズラ, アキチヨウジ, ヤマアジサイ, ヒナノウスツボ, エンレイソウ, ルイヨウボタン, コガネネコノメソウなどが見られた.

中国地方のミツバコンロンソウの記録としては, 山口県レッドリスト 2018 がある. このリストには, 生育記録の出典, 生育地や生育状況の現状についての解説はない. 著者は 2009 年に山口県内の自生地を観察させていただいたが, その自生地の環境は, 今回確認した場所とほぼ同様だった. 広島県内の自生記録は, 中国地方で 2 例目になると思われる. 証拠標本は広島市植物公園に保管してある (tsr-150433).

本調査にあたり, 貴重な助言をいただいた吉野由紀夫氏, 山口県の貴重な生育地を案内していただいた秋丸浩毅氏, 江上嘉昭氏, 吉岡龍太郎氏に感謝します.

## 引用文献

- 愛媛県レッドデータブック 2014. ネットデータ.  
[https://www.pref.ehime.jp/reddatabook2014/detail/09\\_06\\_005280\\_0.html](https://www.pref.ehime.jp/reddatabook2014/detail/09_06_005280_0.html)
- 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会 (編) 1997. 広島県植物誌. 832pp. 中国新聞社, 広島県.
- 福岡県レッドデータブック改訂版 2011. ネットデータ. <http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/kankyo/rdb/rdb/detail/201100225>
- 兵庫県版レッドリスト 2010. ネットデータ. [http://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2010/rdb2010/data/ribenka/a/264\\_udokazura.pdf](http://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2010/rdb2010/data/ribenka/a/264_udokazura.pdf)
- 門田裕一・米倉浩司 2016. アブラナ科. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編). 改訂新版日本の野生植物 4. pp.45-71. 平凡社, 東京.
- 改訂版しまねレッドデータブック 2013 植物編. ネットデータ. <http://www1.pref.shimane.lg.jp/contents/rdb/rdb2/cnt/s56a.html>
- 狩山俊吾 2010. ウドカズラ. 倉敷市立自然史博物館 (編). 岡山県のレッドデータ生物. pp.51. 倉敷市立自然史博物館, 岡山県.
- 加藤雅啓・海老原淳 2011. 国立科学博物館叢書 ⑪ 日本の固有植物. 505pp. 東海大学出版, 神奈川県.
- 京都府レッドデータブック 2015. ネットデータ. <http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/flo057.html>
- レッドデータブックひろしま改訂検討委員会 (編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第 3 版) - レッドデータブックひろしま 2011 -. 633pp. 広島県.
- 山口県レッドリスト 2018. ネットデータ. <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/8/1/2/812581de271e6f4ad5abf43905b9b981.pdf>
- 米倉浩司 2016. ブドウ科. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編). 改訂新版日本の野生植物 2. pp.233-238. 平凡社, 東京.